

麻績老連会報

第70号 2019(令和元)年10月20日発行

麻績村老人クラブ連合会

中央アルプスが一望

「望岳荘」での交流会 20名参加



老連親睦旅行 望岳荘 2019年9月4日～5日

「あゝSENJ」ゆくり帰る「麻績村老連主催の親睦旅行が九月四日(水)～五日(木)中央アルプスが一望できる伊那谷、中川村の自然豊かな河岸段丘の上に建つ、ふるさとの宿「望岳荘」で二十名が参加して開かれた。

宿からはまだなお残雪が残る宝剣岳、千畳敷カール、駒ヶ岳の絶景を楽しみ、ホテル内には「八子博物館」があり、巨大な「蜂の巣」は驚きの迫力でした。

地元にある創業明治四十年、村でただひとつの酒蔵、米澤酒造(今錦)を見学し途中農産物直売所により帰路についた。

市町村 ブロック研修会

安曇野市

六月二十日(木)長野県安曇野庁舎講堂で市町村老人クラブ連合会ブロック研修会が開催された。

「のぼそう！健康寿命、担おう！地域づくりを」テーマに約一五〇人が参加し白馬村「佐野シニアクラ



ブ、塩尻市「東山老人クラブ」、松本市「下角高齢者クラブ」、安曇野市「安曇野市老人クラブ連合会」による事例発表がされた。
役員のなり手不足、若い世代の会員獲得に苦勞しているなど課題報告された。
健康づくり指導講習は辰野町そら運動教室の篠原忍先生の指導で、いきいきタオル体操を行った。

麻績老連主催第八回

マレットゴルフ交流会

集いに六十七人参加

ホールインワン！

令和元年七月二十五日開催の麻績村老連マレット交流会が、六十七名の参加者があり盛会に行われた。

競技開始の笛の合図と共に無欲で一打!! あれ私の玉は何処、ホール近くへ行くとなんとカップの中にいるではないか、今日は幸先がいいぞと意気込み、試合



続行、スコア集計してみると、何といつものスコア

だった。今日は上位入賞の思いもあったが、練習不足かもと気持ちを切替え次回秋の交流会に合わせ練習練習!!

「一時の期待」……



麻績老連主催

春季ゲートボール交流会

交流会



四月二十六日(金)麻績村ゲートボール場で開催された。

主催者である麻績老連の小山紀慶会長、滝沢清美実行委員長あいさつの後試合に入り、スティックの音を鳴り響かせ！第一ゲート通過！お互いの力を出し合い熱戦が繰り広げられた。

支部便り

上町笑和会

改善教室で体操交流



今年マレットが大好きだった関崎明雄さんと上町老クの会長をされた花岡昇さんが逝去され寂しくなりましたが、笑和会は交流の場として生活習慣改善教室に合わせ体操教室（NHKのラジオ体操）に毎回十人程

が集い賑やかです。七月二十五日のマレット交流には八名、十月には十名の参加を予定しています。

麻績ふくこのついで

福祉活動の実情を社協の皆さんが、工夫して寸劇を発表。好評だったイベントに笑和会からも十一名が参加。

（木藤 芳政）

市野川 りんどうクラブ

クラブの一年のスタートは、春季祭典につき境内の環境整備作業からはじまり、六月には恒例の国道四〇三号線沿いの二ヶ所の畑にマリーゴールド、黄花コスモス等を植栽し、七月は猛暑につき夕方から除草作業を行う。24名参加。今年も花も生長したが草も生長し大変な作業に汗。九月二十



三日の秋の例大祭につき境内、参道の清掃。参道が長い草刈り作業が大変な重労働だ。後、前期総会と

懇親会を行う。又十一月下旬に一泊二日の親睦旅行を計画しておりますが年々参加者が少なくなり一人でも多く参加される事を望んでいるところです。

（若林 茂孝）

高桑 ゴールドクラブ

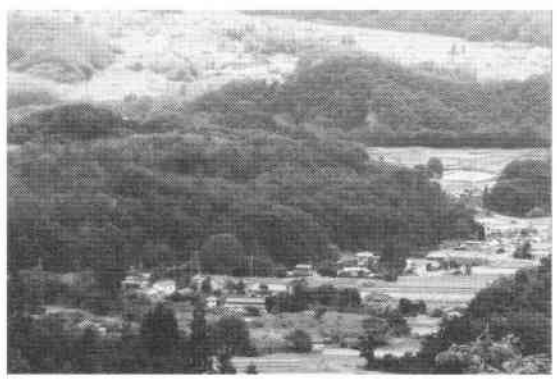
四月二十七日、しばらく休眠中の高桑老人クラブを新たに「高桑ゴールドクラブ」として再出発して三日、総会兼お花見会が催されました。

日頃近くに居ながら、お互い顔を合わせる機会も少なくなりがちな昨今、当日は絶好のお花見日和となり、窓辺の桜も見頃で元気な顔をピンクのレフ板（写真撮影の時使う反射板）のように明るく照らしていました。高地区は名の通り高い所です。さらに公民館は一段

と見晴らしの良い所にあり、目の前に四阿屋山、眼下に坂北、本城地区が望めます。このようなところで久々の皆さんとの会話、食事が楽しい切りと億劫を吹き飛ばす気持ちが大切かと思えます。

ここで一つ、なぞ／＼を「冬のお風呂」とかけて「集会への参加」と解く、そのころは「入る前は気が進まないが入ってしまえば楽しく心地良い」

（平野 二郎）



梶浦シニア会



春からこれまで梶浦シニア事業として社協の吉本さんの指導で三回の「ふれあい健康教室」で数多くの高齢者にふさわしい知識を受講し交流も出来ました。

環境整備として今年には梶浦区の昔からの守り神として「地藏さん周辺の清掃」を八月二十六日の暑い朝皆で行い、終了後全員で「暑気払い」を行い猛暑が続いている今年の夏を乗り切る

ためビールで乾杯して愉快な一時を過ごしました。

九月四日、五日は老連主催の親睦旅行中川村の「望岳荘」に梶浦から五名の方が参加し楽しく交流を深める事ができました。

(宮下 聡)

介護保険20周年

八月二十五日麻績村デイ

サービスセンターみずきで「ふくしのつどい」が開かれ「ふつうのくらしのしあわせをみつめよう」をメインテーマに大勢の皆様が参加した。

家族で協力しあい最後まで献身的介護を続けられた桐山みとし氏(叶里)塚原富美江氏(野田沢)に高齢者等介護善行功労者表彰が授与された。

地域の皆様、地域の介護

保険事業所、地域包括支援センターの皆様による「おみごと劇団」が介護事業の仕組みをわかりやすく演劇で表現、会場をわかせた。
小、中学生による活動報告、各種団体が参加し介護保険二十周年にふさわしいつどいとなった。



麻績村 敬老会

麻績村主宰の敬老会が九月十二日(木)麻績村総合体育館で開催された。

七十五歳以上の高齢者一二四名が招待された。

高野忠房村長さんからはあいさつの中で、今後心配される静岡、糸魚川構造線による地震の防災対策につ



いてのお話を聞き、アトラクションでは、中山まさとも・つかささんの漫談を聞きお互いの親睦と懇親を深めた。

今年度米寿を迎えた方が二十九人、白寿が九人、一〇〇歳以上が十三人と健康長寿村をものごとっています。

最後に村へのお礼と感謝をこめて小山紀慶会長から万歳三唱で終了した。

村民マレット ゴルフ大会

時代の流れ!!

六月十六日に村民体育祭が開催され、前日迄の雨でグラウンド不良の為、屋外競技はマレットのみとなった。



当日八時より受付をし、雨模様の中、エントリーメンバーは九十八人で当日欠席者も少々いたが九十人を超えるメンバーでマレット

大会が行われ、選手それぞれ「俺が優勝」と言わんばかりの眼差しでボールを打っていた。二十年前はゲートボールが盛んで地区代表選手になるにも大変だったが、今は下火になりチーム編成も出来ない地区も出ている状態。マレット大会も村長杯、老連主催が二回開催され、マレット人口が増えている。皆足腰を鍛えて、長寿の村作りにご協力を!!

・ホールインワン・にマレットを!!



麻績学級が八月八日交流センターで開催された。講師は、消費生活アドバイザー北村きぬ子氏による「消費者被害に遭わないための学習会」が開催された。オ



レオレ詐欺を防ぐためには電話対策と●留守番電話の設定●家族等の電話番号登録●非通知電話拒否設定、合言葉や家族の連絡先を決めるなど「家族の絆」で特殊詐欺を撃退しましょう。
なにかあった時には、消費者ホットライン188、警察相談専用電話#9110へ電話して下さい。



あざみの花よ
お仙の茶屋

真夏になると聖高原では野草が短い命を咲かせている。コマクサ、ヤナギラン、イワカガミ、そしてアザミだ。そんな野草をはるかに凌ぐ十五年の命お仙の茶屋。聖高原を歩き風になびく濃いピンクのあざみの花のような「お仙の茶や」に出逢うことは、青春時代の思い出を取り戻す一瞬であった。

あざみの花よお仙の茶屋
いととき花よ名はあざみ
心の花よ名はあざみ
あざみに深きわが想い
八割そばを売りにした
平成時代のお仙茶屋
令和の若い衆何を売る

かりま 豊

年輪に掲載する記事を募集しています。日頃の思いや、気になっていることなど、何でも結構です。お気軽にご投稿ください。

麻績の馬場節
ロマンの星お仙

馬場節のヒロイン「お仙さん」は、農作業で暮らしてきた麻績の村人たちの心に生きる歓びと夢やロマンの星として唄い継がれてきた、麻績が誇る文化遺産です。

馬場節は、麻績の民謡保存会が、NHK松本放送局の開局を機会に若林七五三さんが編曲、松本局から全国放送された歌が今日まで唄い継がれております。
ロマン溢れる馬場節に想いをはせ、余生を楽しみましょう。

法善寺退董
晋山式

法善寺は奈良時代の一四九二年明応元年開山以来五〇〇年以上の歴史を経ています。信濃三十三番一番霊場として観音信仰の役割を担っています。

平成五年より寺門の興隆につとめていただいた三十二世大屋修爾住職の退董式、後継者に曹洞宗仏眼山法善寺三十三世大屋啓明住職の晋山式が五月四日挙行されました。



編集後記

日本人の寿命は八十歳を越し、人生百年時代になったと言われ、大変喜ばしい。

長寿国になったのは、食事の向上、ウォーキング等運動指向と医療の飛躍的な進歩によるものではないか。

麻績村は保健師さんによる健康教室等、種々活動と指導が行っていたいてありがたいが、参加するのは圧倒的に女性が多いようである。男性は皆「女房が長生きして、後に残ってくれなきゃ困る」「俺あ百姓が忙しくて」といって不参加ではもったいない。

老後はゆつくりと心豊かに過ごしたいものだが、想いはほど遠い毎日である。

「老いたるは尚うるわしい」の言葉の姿に一步でも近づきたいものである。

(塚原 勝美)